

け死もごちやなかあ

岩原東長寿会

木村ノリ子（八十八歳）

一、デイサービスの一日

私は今年十二月月八日八十八歳の高貴（こうきこうれい）者（しや）で、脳梗塞の後遺症で要支援2の援助を受けて、ころばぬよう少しでも歩けるよう努めている。四月上旬の暖かい日、デイサービスしあわせ通り「らぶ」の利用者のお友達と、楽しい快話（かいわ）がはずんだ。いつの間にか終活（しゆうかつ）の話になり花子さんが「人間はよか死に頃があると思う。物事がわからなくなり、子供に心配をかけない頃がいい」、咲子（さきこ）さんが「んだもしたん、死に頃があつちな、いつかつしやん」、葉子（はなこ）さんが「そいなら今が一番よか死に頃じやなかどかい」、私は「け死もごちやなかあ、今日もよかひよりで入浴、リハビリ、おいしい中食後大好きな石合先生の書道、お茶のみ

送迎バスで玄関まで送り届けてもらい運（ふ）のかことばつかり、「け死もごちやなかあ」。家庭は娘二人、孫六人、ひ孫五人のおばあさんで、五時半起床、新聞読んで朝食後の一個の黒砂糖と一杯のお茶は日本一おいしい。夕方から夜には孫達よりのテレビ電話、ひ孫たちの動画など、そばに居る感じで嬉しい。よそのお子様もかわいいが我が家のひ孫はもぞか、け死もごちやなかあ。

二、昭和一桁生まれの青春

昭和十二年七月七日、支那事変（ぼつぽつ）勃発（はつぱつ）（九歳）昭和十六年十二月八日、大東亜戦争開戦（十三歳）の戦時中、日本帝国未曾有の国家総動員（めいし）法、滅私奉公、質素儉約、物資不足、食糧増産、勤労奉仕など体験。忍耐の生活、食糧不足でカライモ、カボチャは最高、食べられる草（ハコベ、スノベ）などを入れた雑炊、小麦粉のカス（フスマ）のだんごがおいしかった。女学生も麦刈り、田植、夏休みは稲の害虫カメムシ（フ）の採取、土地改良の食糧増産、衣料切符で裁縫の材料はなく四十五連隊の軍服修理、十三塚原航空路のセメントを合わせる水を嘉例川から一日に三回担い棒で水

の運搬（うんぱん）の勤労奉仕。昭和二十年一月二十二日、長崎県川棚海軍工廠（こうじょう）に学徒報国隊（おとめ）として動員、十六歳の乙女（おとめ）たちがお国のため大和撫子として銃後の守りを頑張った姿を神様がよく見ていて現在のしあわせを与えて下さっているのじゃないかなあ。



長崎県の川棚海軍工廠（こうじょう）勤務部、部長、軍医士官、衛生兵、女子挺身隊、鉢巻き姿の学徒報国隊（おとめ）加治木から木村さんら5名、全員で107名とある。

神様からのご褒美（ほつび）だと信じて有難い。おかげさまで川棚で寝食苦楽を共にした同窓生の絆は深い。水曜日は電話の日に決め、お友達と近況情報の交換、みなさんおしゃべり上手で長電話になる。毎年秋の「棕鳩十記念祭」並びに同窓会は唯一の生きがいを感じる。車椅